

車掌2名体制の問題点を明らかにしていく！

幹鉄事は昨年12月21日「新幹線車内業務の見直しについて」の提案をした。提案内容は①車掌乗組み2名体制 ②パーサーの役割拡大 ③運転士と車掌のクルー化 ④短区間巡回などである。職場の中では「1,300名の安全が守れるのか」「これまでの車内業務ができるのか」と不安の声が多い。

ユニオン組合はこの提案について知っていたかのごとく翌日には「業務部情報」を発行した。緊急申し入れを悪いとは言わないが、ここまで対応が早いと「早期妥結」を画策していると職場のみんなは感じている。私たちが平成30年3月ダイヤ改正を見据えて詳細な申し入れを行っていき、車掌2名体制の問題性を明らかにしていく。ユニオンはくれぐれも「早期妥結」に走らないことを忠告しておきたい。

総論として会社は安全よりも効率化を優先したと表明したことだ。

会社提案では「パーサーへの業務委託を拡大し車内巡回を強化するとともに異常時対応力を向上」というが車掌を減らしてパーサーに業務を一部委託して異常時対応力が向上…なんて文章としておかしい。現状維持すらできないのでは？

一例をあげよう。駅発車時、車掌長は側引戸の閉扉不良を現認したとする。異物介在か？機械的故障か？パーサーに急行してもらうか？配電盤の確認が必要になるか？ならば自分が確認に行くのか？瞬間的に判断しなければならない。これまで中乗りがいたから、躊躇なく指示できたがパーサーに委託された業務内容が頭をよぎる。異常時対応力が向上どころか低下も懸念されるのではないのか？私たちはあらゆる問題点を会社に突き付け車掌2名体制の問題性を明らかにしていく。